

所歟

大治四年正月十二日辛卯凶會殿下給御消息云今日依卯日女官持來卯杖是后宮事也女御如何就中女御宣旨未下間不審也又假雖給祿今日凶會如何予宗藤原申云女御宣旨以前卯杖事不尋得候但給祿事強不可忌事歟其故者於禁中給祿事口給内侍祿祿每度強不可被忌歟後聞不給祿云々可被尋例者

〔台記〕仁平四年正月二日乙卯左衛門督參著仗座使藏人奏卯杖奏可付内侍所之由蒙可許仰外記云々

〔山槐記〕治承三年正月八日丁卯自東宮被獻卯杖於内中宮御方自中宮又被獻東宮云々自内不被獻兩宮云々自中宮被獻之條不可然之由或人難之先例不分明可尋事大進基親稱有所見致沙汰云々權大進宗頼傾奇云々

〔大館常興日記〕天文九年正月八日御賀例御卯杖枝誤の爲にざくろの木今朝佐かたより人を遣てきらせ候例年之御事也人數遣之いづくにても可然より來候所のをきりとり申候也

〔貫之集〕卯杖

卯づゑつく君の姿は翁にて千とせの坂を今や越なん

〔赤染衛門集〕正月に業遠が卯杖して臺盤所へ入たりしに

いかなりし杖のさかりの日かげともたがことだまも見えもわかれず

かへし

業遠

わきてこそ思ひかけさす山の端に我ことだまの杖もきりしか

〔後拾遺和歌集春一〕正月七日卯日にあたりて侍けるにけふ卯杖つきてやなど通宗朝臣のもとよ

りいひおこせて侍ければよめる

伊勢大輔